



平成26年7月1日現在

世帯数	: 798戸 (-4)
人口	: 1482人 (-12)
男	: 699人 (-1)
女	: 783人 (-11)

松本市重要有形民俗文化財
松本城下町の舞台 シリーズ①
松本に「舞台」が登場して322年

多くの市民から「天神様」の名で親しまれている深志神社に、学問の神様・菅原道真公が祭られて、今年で400年となりました。7月25日の例大祭に続いて、御鎮座四百年祭が盛大に執り行われます(7月7日現在)。



「天神祭」といえば、町会ごとにお囃子の子供たちを乗せた「舞台」と呼ばれる祭り屋台の巡行でおなじみですが、市の重要有形民俗文化財に指定されている深志神社の舞台は、平成11年から始まった修復事業も本年をもって16台のすべてが終了したところです。

松本深志舞台保存会の資料によりまず、「現存の松本深志舞台の基準的な構造・様層は巾一間、奥行き二間の囃

後輪は内輪で小さいこと、階層は二階形式であること、下層は巾一間、奥行き二間の囃

式は、四輪形式で、前輪が台輪の外に付く外輪で大きく、

子台で、三方に張出しの勾欄が付くこと、上下層の間に、四方に葺下ろしの起り屋根を付けること、上層は幅一間・奥行き一間で四本の丸柱の構成で、屋根は切妻妻入で起り屋根の形式、また上層は四周に勾欄を回すもので、内部に人形を置くこと、がほぼ共通する(岐阜工専 水野耕嗣教授)とのことです。

中心市街地で続く人口減少の影響は、舞台の維持管理の面でも、子供のお囃子の継承の面でも多くの課題となつて表れてきていますが、町会による祭礼や伝統行事は祖先と子孫とをつなぐ地域の絆です。まちの宝である各町会の舞台を振り返りながら、第一地区の魅力を再発見していきたいと思えます。

(次号以降、各町会の舞台を紹介します。)

平成26年度 第二地区公民館委員

順不同・敬称略

平成26年度の第一地区公民館委員の皆さんです。

□運営委員

石塚 栄一(本町3丁目)

大谷 美紀子(本町1丁目)

太田 ますみ(本町3丁目)

阿部 康之助(本町5丁目)

鈴木 史朗(伊勢町1丁目)

藤澤 淳次(分銅町)

渋谷 隆也(中条中)

田内 正一(中条中)

伊藤 昭子(博労町)

羽山 義輝(中町1丁目)

飯森 福太郎(中町1丁目)

平林 明子(中町1丁目)

□館報委員

横沢 敏(本町1丁目)

都筑 朋彦(本町2丁目)

岩原 正勲(本町4丁目)

小田多井 昭夫(伊勢町1丁目)

田中 博(伊勢町1丁目)

山内 敦子(神明町)

田内 正一(中条中)

伊藤 善立(博労町)

白井 充子(中町2丁目)

白井 はるな(中町2丁目)

□体育委員

阿部 康之助(本町5丁目)

輪湖 信久(伊勢町1丁目)

的場 文造(伊勢町2丁目)

真島 富男(新伊勢町)

渋谷 隆也(中条中)

伊藤 昭子(博労町)

□文化・視聴覚委員

内藤 英昭(本町1丁目)

太田 ますみ(本町3丁目)

矢口 尚久(本町5丁目)

犬飼 陽一(伊勢町2丁目)

深澤 健能(伊勢町3丁目)

高宮 千恵子(分銅町)

高嶋 敏行(新伊勢町)

塩原 信一(神明町)

毛利 達生(国府町)

渋谷 隆子(中条中)

高井 増子(博労町)

清澤 進(中町2丁目)

□第一地区公民館職員

館長 中畑 康則

館長補佐 永井 康太郎

浅田 昌範

柳澤 優子

今井 美代子



第一地区の

老舗をたずねて

第三十八回：田多井薬局

(伊勢町二丁目)

「博愛堂 田多井薬局」の歴史が記録として残っているのは、一九一〇(明治四十二年)三月二十三日から。旧梓川村(現松本市)下立田出身の初代田多井菊一さんが、今の伊勢町三丁目、スーパーホテル前の辺りに松本平初の薬を作る薬局として営業を始めた。

菊一さんは、静岡県の病院で学び、親戚の援助を受けて開業したという。

二代目の英彦さんは、津川雅彦のそっくりさんといわれるほどのハンサムで、やさしく親切でもてたという。パイロットになりたくて、手ぬぐ



現在の店舗

昭和十年から十五年くらいに、今の M ウイングの辺りに店を移転して販売を続けた。第二次世界大戦

という。三代目で現会長の健全さんは「『最大よりも最良の薬局たらん』をスローガンにやっています。これからも、お客さんの治そうとする気持ちに寄り添い、販売をしていきたい。勉強してきた東洋医学をより有効に役立て、処方調剤と共に、予防などの観点でもお客さんの健康を考えていきたい」と話していた。



昭和10年頃の店舗

い一本と抱にぎりを持つて上京、友だちの家に転がり込み、九段下の坂で、日給十五銭の荷運びのアルバイトをしながら、明治薬科大学の前身の薬学校で学んだ。途中、脚気を患いながらも頑張った。

その頃の苦勞を忘れないためか、十月十五日の創業記念日には、今でもイモご飯を食べている。

創業当時は、自社ブランドの薬を八〇〇種類くらいつくっていたが、梅毒などに効くヨードカリ丸や女性のための順血湯などがよく売れた

のときには、金属の供出で、薬を作るための機械を持って行かれた。

自社ブランドの薬で商売をしてきたが、薬事法の改正以降は、法律に適應して商売の形も変え、努力してきた。

戦後スーパーができ始めたころは、醤油なども置いたがそれがよく売れて驚いたという。

平成八年に現在の場所に移転。

「そばの太さやつゆのタイプを知る限りで説明する事はできませんが、美味しさは、人それぞれ。好みを聞かせていただけますか？」

老舗の田舎そば屋もあれば洗練された都会派のそばもある。鯉の効いた関東風のつゆがあり、海なし県特有のいりこ出汁を守るつゆもある。

今回は、第一地区のそば屋事情と、それを求めてやって来る観光客を巡る番外編です。

仕事柄、年間通して県外や国外からの観光客と直接話す機会も多い私。話題はそばに及ぶ事も多く、いつも聞かれてしまふのが「美味しいそば屋はどこ?」「という質問これ、とても返答に困るのです。

「そば粉・小麦粉・水」なんともシンプルなにもかかわらず、多様なタイプのそばが溢れかえるのだから、何をしても「美味しい」のかは、もはや食べ手の好みによると、思うのです。ですから、私は観光客の方々にこう答えます。

「そばの太さやつゆのタイプを知る限りで説明する事はできませんが、美味しさは、人それぞれ。好みを聞かせていただけますか？」

老舗の田舎そば屋もあれば洗練された都会派のそばもある。鯉の効いた関東風のつゆがあり、海なし県特有のいりこ出汁を守るつゆもある。地域の私達との会話の中から、旅人各々が自分好みのそばを探しあてる「そば巡り」。様々なタイプのそば屋が溢れる第一地区ならではの、楽しみ方ではないでしょうか。

電車通り

第一地区公民館で囲碁の初心者講座が始まっています。現在 10 人ほどの、どちらかという中高年の生徒さんが学んでいます。

囲碁については、数年前、東北大学医学部で、大勢の人に碁を打ってもらいながら、脳の働きについての研究が実施され、その結果は、まず、碁を打つときに主に使われるのが右脳(感覚的・形や空間等の認識、大局的視野での判断力を受持つ領域)で、左脳(計算・暗記・論理的思考機能を受持つ領域)は終盤(陣地を数える、段階)で主に働いているだけ、ということでした。これは、囲碁が芸術活動と同質だということを意味しています。

また、小学生 40 人ほどに、週一回一時間の囲碁の授業を 3 か月間行い、認知機能の変化を測定したところ、子供たちの思考力、短期記憶力、総合的な作業力のすべての分野で顕著な向上が確認できたことでした。医学的にも、碁が総合的に脳の力を向上させる効果があるということが証明されたわけです。そして、他にも、とにかく楽しいし、友達作りにもなります。お金もかかりませんから、趣味としてお勧めする次第です。